

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立宍道小学校）

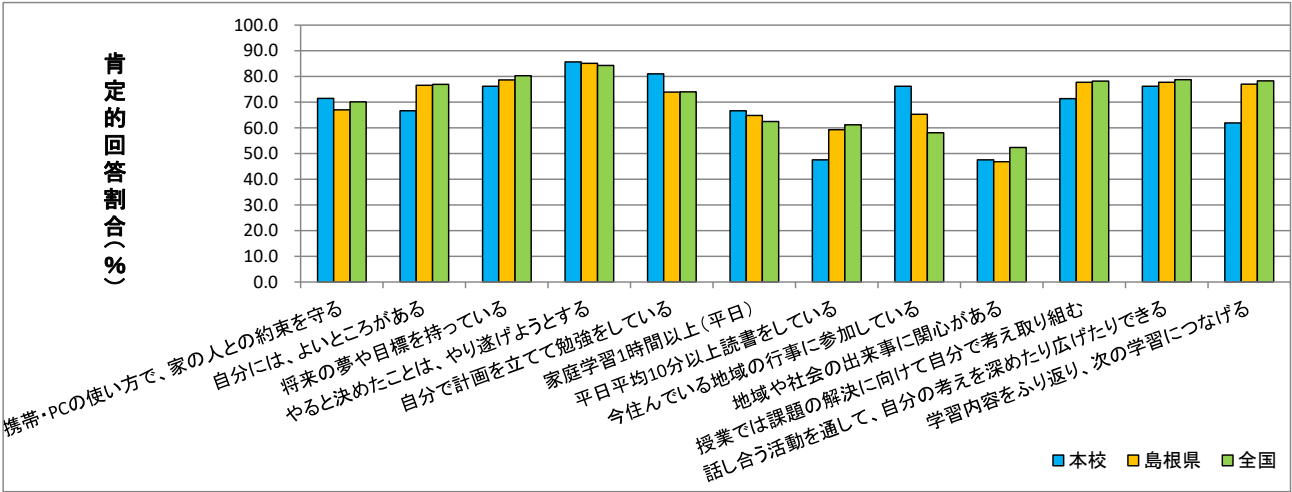
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できている。 ○文の中における主語と述語との関係を捉えることができている。 ●文章と図表とを結びつける情報処理が苦手である。 ●文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することに抵抗がある。	・新聞記事を読んで感想を書く活動を継続する。 ・様々な教科で体験や資料などの結びつきを言語化する経験を重視する。 ・継続的な読書活動をさらに豊かにできるよう工夫する。
算数	○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができている。 ○時刻に関する知識・技能が確かになっている。 ●数と計算・測定において必要な数値を選び、その求め方を記述しきる力が必ずしも十分ではない。 ●図形領域において図形の構成する要素などに着目し、面積の求め方を説明しきる力が必ずしも十分ではない。	・グループ活動やペア学習などで自分の考えを表現する場をつくる。 ・解決の方法を記述したり説明したりする活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」につなげる。 ・具体物や身近な生活と数理を結びつける活動を工夫する。

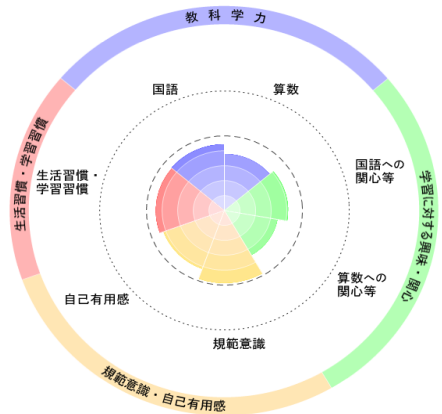
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○人との関わりの中で、助け合いや支え合いが大切と受け止めている。 ○学校以外で学習塾や家庭教師による学習に取り組んでいる。 ○地域との関わりをもち、人の役に立ちたいと思っている児童が多い。 ●学習や課題解決に取り組む意欲、表現方法の工夫に課題がある。	・少人数指導や段階的な学習を通して、形成的に評価する。 ・支持的風土を大切に集団作りを意識して、伸び伸びと表現し合う経験を増やす。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を深める。
- ・日常の生活経験との関わり等、興味・関心・意欲を高める課題設定と問題提示の仕方を工夫する。
- ・一人一人の思考を可視化するためのICT等の活用に取り組む。

【受検者数】 41 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。